



滋賀県立 陶芸の森 陶芸館

特別企画展

炎との対話から 私の自然釉 神山清子展

2026 6.13^{Sat} — 8.30^{Sun}

休館日 / 毎週月曜日 ※ 7月20日(月・祝)は開館、7月21日(火)は振替休館

開館時間 / 9:30 — 17:00 (入館は16:30まで)

会場 / 滋賀県立陶芸の森 陶芸館

〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨2188-7

TEL.0748-83-0909 FAX.0748-83-1193

Web: <https://www.sccp.jp>

入場料 / 一般 1,100円 (880円)、大学生 880円 (700円)

高校生以下無料 ※ () 内は20人以上の団体料金

主催 / 滋賀県立陶芸の森

協力 / 京セラ株式会社

後援 / 滋賀県教育委員会、甲賀市、京都新聞

助成 / 芸術文化振興基金



SPECIAL EXHIBITION
KIYOKO KOHYAMA
MY NATURAL GLAZE
FROM DIALOGUE WITH FIRE



神山清子作陶風景

2019 / 令和元年 (撮影: ROOF design office)



「信楽ラスター彩四方水指」

2005 / 平成17年 (撮影: 杉本賢正)

滋賀県立陶芸の森 陶芸館蔵

炎との対話から 私の自然釉 神山清子展

特別企画展

神山清子（1936-2023）は、信楽の女性陶芸家の草分けとして知られています。映画「火火」や連続テレビ小説「スカーレット」から、彼女を知った方も多いかもしれません。神山清子の作陶は1953年に入社した陶器会社での絵付けにはじまります。火鉢の絵付けで才能を発揮しましたが、石油ストーブの普及による火鉢の低迷を機に独立。信楽でクラフトデザインを指導した日根野作三のほか、八木一夫や熊倉順吉に造形を学びました。古信楽の陶片との出会いから薪窯焼成をはじめた神山清子は、1970年から晩年まで精力的に作陶活動を展開し、薪窯でラスターの輝きを生み出すなど、独自の自然釉の美しさを探究しました。また、韓国での作陶指導や世界各地への旅など、海外でのさまざまな出会いと交流をとおして作風の幅を広げていきました。

試行錯誤を重ねてきた神山清子の半世紀に及ぶ作陶は、まさに時代に向き合いさまざまな困難を乗り越えてきた陶産地・信楽の姿と重なります。本展では、「人の心の中にいつまでも残る自然釉」を目指し、たくましく生き抜いた神山清子の生涯を辿ります。

関連企画

1 ギャラリートーク [申込不要・要入場券]

（日時）7月19日（日）、8月9日（日）、8月23日（日） 各日とも13:30～（40分程度）

2 ～土の魅力を子どもたちに伝えたいと語った清子さん～

つつっこプログラム特別講座 [要申込：(Email) t-oubo@sccp.jp]

・神山清子スタイルのクラフトデザインに挑戦

“おだんご皿”をつくろう！

（日時）8月1日（土）10:00～12:00

（講師）津守愛香

（会場）信楽産業展示館創作室 （参加料）3,000円 （定員）20人

“花器”をつくろう！

（日時）8月2日（日）10:00～12:00

（講師）田中哲也

・ねんどと遊ぶ！ねんど体操をして土面をつくろう

～大阪公立大学との研究プロジェクト 子どもの身体活動と芸術性の検証～

（日時）7月25日（土）、26日（日） 両日とも10:00～12:00、13:30～15:30

（会場）信楽産業展示館創作室 （参加料）500円 ＊空きがあれば大人も可！



3 対話の森 陶芸家 神山清子さん追想 [要申込：(Email) gakugei@sccp.jp]

長女の石川久美子さんをお迎えし、当館館長の松井利夫とともに、神山清子さんを偲びながらその半生を振り返ります。

（日時）7月18日（土）14:00～

（会場）信楽産業展示館信楽ホール （参加料）無料

4 ギャラリー企画 [入場無料]

陶芸館・名品セレクション展Ⅳ、Ⅴ

（会期）6月13日（土）～7月5日（日）

夏休み企画「子どもたちの土の造形展」

（会期）7月18日（土）～8月30日（日）

5 ミュージアムショップ 6sense

特集コーナー：清子さんの器たち

小皿やマグカップなどの日常の器から薪窯焼成の作品まで、多数取り揃えています。

＊売り上げの一部は、子どもたちのやきもの体験への支援になります。

滋賀県立 陶芸の森 陶芸館

〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨2188-7

TEL.0748-83-0909 FAX.0748-83-1193

Web: <https://www.sccp.jp>

Web



Instagram



ハッシュタグは
#神山清子展



1. 「信楽自然釉まな板皿」
1983 / 昭和58年
（撮影：ROOF design office）
2. 「信楽ラスター彩菊花文壺」
1993 / 平成5年
3. 「信楽小紋皿」
1970s / 45～50年代
（撮影：藤井友樹）
4. 「信楽壺 銘月下」
1972 / 昭和47年
5. 「信楽鍋大筒噴」
1973 / 昭和48年

＊すべて滋賀県立陶芸の森 陶芸館蔵
2. 4. 5（撮影：杉本賢正）



次回展覧会

特別展

「シガラキ・ニューウェーブ：ひろがる創造のいま」

会期：2026年9月12日（土）～12月13日（日）

アクセス

公共交通機関

- 「JR草津駅」より
草津線乗り換え
「貴生川駅」下車、
信楽高原鉄道乗り換え
「信楽駅」下車、
徒歩20分（約75分）
- 信楽高原鉄道「信楽駅」より
甲賀市コミュニティバス
「陶芸の森前」または
「陶芸の森（陶芸館前）」
下車（約5分）

自動車

- 新名神高速道路
信楽インターから約8分
- 駐車場（無料）：
普通車約250台、
大型バス約10台

